

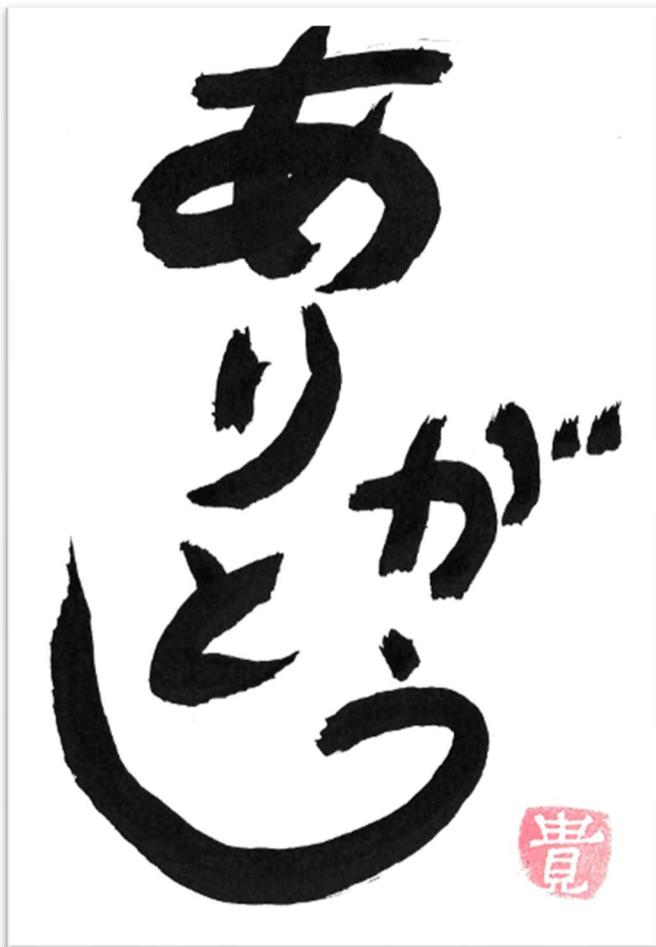
令和 2年 9月 1日



# 父母の会だより

## 豊橋市肢体不自由児(者)父母の会 第44号

〈発行責任者〉豊橋市杉山町向井 24-2 中神 達二 TEL/ 0532-23-3217  
FAX/ 0532-23-4830 E-mail/rsa34375@nifty.com

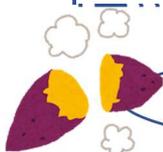


『人と人のつながりに感謝  
~ありがとう~』

勤務先:(株)NTT データだいち  
森 貴広さん作品

### 44号記事内容

- ・新型コロナウイルス感染対策における要望・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ・愛知県医療的ケア児者実態調査結果報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ・青い鳥郵便はがき寄付のお礼・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ・移行期医療について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ・令和3年度要望書・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- ・東海3県2市ボッチャ交流会優勝 金田大輝さん・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- ・「心魂プロジェクト」オンラインデリバリーパフォーマンス・・・・・・・・・・ 9
- ・友だち紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- ・今後の主な行事予定・あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13



ホームページ <https://www.fubonokai-toyohashi.com>



**\*全肢連から新型コロナに対する要望を下記の通り提出していますので紹介します。\***

令和2年5月1日

厚生労働大臣 様  
文部科学大臣 様

一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会  
会長 清水 誠 一  
副会長 石橋 吉 章  
副会長 植松 潤 治

**「新型コロナウイルス感染対策における障害児者への適切な配慮に関する要望」**

日頃、当会に対し多大なるご支援賜わりますことに感謝申し上げます。

新型コロナウイルスによる感染が国内に広がる中、3月2日一斉休校が求められ、地域によっては5月末まで子供たちは学校に通えず自宅で学習を強いられています。

また、4月7日には7都府県に、20日には全国を対象とした「緊急事態宣言」が発出され、全国民挙げて感染対策に取り組んでいます。しかし、今日現在感染の勢いは止まらず障害のある子どもらの行き場のない生活にも限界を来し、子どもたちの健康・精神状態、そしてそれを支える家族に大いなる疲弊が見受けられるようになっていきます。

それにも増して特に重症患者の治療に対して医療崩壊の危険があるとの報道を聞きます。医療従事者の間で「誰に人工呼吸器を配分するべきか」というルール作りのための議論が始まっていることに、私たち障害児者並びにそれを支える家族は大変な危機感を抱いています。優生思想につながる障害を理由とした命の選別があってはなりません。このようないのちの選別が推進されることのないようにしてください。

そのために、以下の対応と支援を国及び自治体において大至急、確実に行っていただきますよう要望致します。

記

1. いかなる状況においても第三者による命の選別を行わないこと
2. 重症化に対応できるよう人工呼吸器の増産と確保
3. 重症者のための集中治療室の増設（増床）
4. 医療的ケアを必要とする児者や難病患者への感染予防対策上、必要とする物資（消毒用アルコール、マスク、防護服など）の確保と確実な配給
5. 医療的ケアを必要とする児者や難病患者への感染予防対策上、必要とする物資（消毒用アルコール、マスク）の確実な配給（かかりつけ薬局などでの受け取り）
6. 医療的ケアを必要とする児者や難病患者が常時必要とする衛生材料の確保と確実な配給（人工呼吸器に使う精製水、消毒用アルコール、マスク、滅菌不織布ガーゼなど）
7. 長引く休校・障害者通所施設の休業・短期入所の閉鎖等に伴う在宅生活での介護支援体制の確保
8. 感染者の医療、看護、介護にあたる人々の報酬上の評価
9. 感染者の医療、看護、介護にあたる人々とその家族の安全安心のための保障（保育を必要とされる乳幼児保護体制、感染した時の保障等）
10. 感染者の医療、看護、介護にあたる人々の心のケア（PTSDに近い症状が報告されています）体制の確保
11. 長引く休校に伴う在宅学習での閉塞・孤立感を軽減するために定期的な ICT を用いた家庭面談等、特別支援教育に特化した在宅学習環境の整備
12. 長引く休校に伴う在宅学習での閉塞・孤立感を軽減するために特別支援学校の臨機応変な開放

# 令和元年度「愛知県 医療的ケア児者実態調査結果報告書」

令和2年5月20日

豊橋 中神

表題の報告書が令和2年3月末に発行されましたので、その概要を報告します。

近代、医療技術等の進歩等により、たんの吸引や経管栄養、人工呼吸器装着児等の医療的ケア児が増加しており、在宅での医療的ケア児が生活するための支援の拡充や介護する家族の負担軽減の為に、医療的ケア児支援に関わる保健、医療、障害福祉、保育、教育等、関係機関が連携し、それぞれの立場から対策を講ずることが必要となっています。

平成28年6月児童福祉法の改正により、医療的ケア児が必要な支援を円滑に受けることができるよう、地方公共団体の努力が規定され関係機関が一堂に会し、継続的に意見交換や情報共有を図る「協議の場」の設置が明記されると共に障害児福祉計画の策定が義務づけられました。愛知県では自立支援協議会の専門部会として「医療的ケア児支援部会」が平成30年7月に設置され必要な施策の検討を行いました。

その中で、まずは医療的ケア児の対象者数や生活状況を始め、行政等へのニーズや困りごと等を把握する必要があるとの認識のもと実態調査を実施しました。なお調査対象者の年齢（範囲）については、医療的ケア児の成長に伴いサービスの提供等においては医療的ケアを必要とする大人の状況も考慮する必要があること等部会意見を踏まえ、介護保険の対象になるまでの40歳未満の医療的ケア児者を含めることとしました。

実態調査は二段階とし、

**第一段階（含名古屋市）**では**医療的ケア児者の人数**を把握するために、ライフステージ別に関係医療機関、訪問看護ステーション、障害福祉サービス事業所、行政機関等に個人情報を含まない該当者リストの協力をお願いし、令和元年4月～7月に実施。

**第二段階（除名古屋市）**は介護者を含む当事者を対象に**生活状況やこまり感の把握**および**こどもたちの日常生活の向上改善**を目指すと共に、**親たちの悩みや不安の解消**に役立てようというものです。そのために第一段階で回答のあった対象者に医療機関等経由でアンケート用紙を手渡ししてもらい、原則無記名で返信してもらおう。但し災害時等で行政利用に情報提供同意の場合は個人情報も記入してもらおう。令和元年9月～12月に実施。調査の内容は令和2年3月末に公表。

**一次調査（含名古屋市）**では**医療的ケア児者 1,936人**

**二次調査（除名古屋市）**⇒**報告件数 1,327人・有効回答 625人(回収率 47.1%=625/1,327人)**

以下、新聞記事ご参照（次ページ）

# 呼吸器、たん吸引必要 医療ケア児・者

# 容態急変時対応 62%「不安」

## 県・名古屋市 介護する家族調査

人工呼吸器での管理やたんの吸引などが必要な四十歳未満の「医療的ケア児・者」と家族の生活実態に関し、県と名古屋市が初めて調査を実施した。結果からは、看護・介護を担う家族が子どもらの急変時の対応を不安に感じていたり、災害時の準備が不足していたりするといった課題が浮き彫りになった。

(森若奈)

## 消毒液を優先配布

新型コロナウイルスの感染拡大で消毒液が品薄になっていることから、国が医療的ケア児向けに優先供給している消毒液の配布が、県内でも始まっている。

国は3月、備蓄分やメーカーから確保した消毒液780本を県に配布した。看護・介護者の手指や器具を消毒する必要がある人工呼吸器を利用する子どもと、気管切開をしている子どもがいる家庭を対象に、県は3月下旬から順次、訪問看護ステーションや市町村を通じて配った。県は現在、優先供給の追加を厚生労働省に要望中。さらに、呼吸器系以外のケアが必要な子どもがいる家庭への配布もできるよう準備を進めている。

人工呼吸器のほか経管栄養や人工肛門、酸素吸引などを利用する人を「医療的ケア児・者」と定義。介護の対象となるまでの四十歳未満の人について、困り事などを把握しようとする調査に乗り出した。

昨年四〜十二月、医療機関や訪問看護ステーションなどの事業者や、当事者とその家族を対象に県と市が合同で実施。推計では、県内の二十歳未満の医療的ケア児は千四百六十人、二十〜三十九歳を合わせると千九百三十六人だった。当事者と家族に困っている

ることや不安に感じたことを尋ねた質問では、62・7%が「子どもの急変時の対応」を挙げた。「看護・介護者に何かあった時に代替手段がない」の59・2%、「医療的ケアを家族が実施すること」の51・2%が続いた。

主な看護・介護者の平均睡眠時間を聞いたところ、回答者の三分の一超の35・3%が「五時間未満」と答えた。就労状況に関する設問では、38・0%が「就労したいが、看護のためできない」と回答した。

災害時や緊急時の対策では、家族以外の連絡先が決まっていない人が70・7%いた。市町村の「避難行動要支援者名簿」に登録している人は38・7%にとどまった。

県障害福祉課の担当者は「初めての調査で、当事者やご家族の暮らしや困り事が見えてきた。市町村にも結果を通知しており、災害時の要支援者名簿への登録を促していきたい」と話している。

中日新聞より



## 青い鳥郵便はがき寄付のお礼

前号で紹介しました「青い鳥郵便はがき」の寄付、ありがとうございました。

寄贈者は芝原金吾さん、後藤晃佑くん、中根暖くん、中林咲貴ちゃん、菅沼亮也くん、尾崎元哉くん、尾崎銀一郎くん、奥平涼太くん、金田雄也くん、松井俊裕くん、二村竜樹くん、井土瑠美ちゃん合わせて12名の方が寄贈してくださいました。

## 移行期医療について

中 神

近頃、移行期医療支援体制整備について、議論がなされています。昨年愛知県「小慢自立支援事業」の議題としても採り上げられました。

### 移行期医療とは、

「小児科から成人中心の医療に移行するプロセス」を言いますが、各医療機関、患児者家族等それぞれの立場で多くの課題があります。

現在県としても、小児科と成人診療科双方の医療従事者を対象とした啓発や意識向上及び移行期医療を総合的に支援する機能として「移行期医療支援センター」構築等が検討されていて、今後子どもたちがスムーズに成人診療科に移行でき、成人した患者のニーズに見合った医療が受けられるよう心理的・物理的準備を進めていく事は必要だと思います。

今回日本小児科学会、移行期の患者に対するワーキンググループの提言(HP)を基に、移行期医療の課題等についてまとめてみました。

### 移行期医療の目的

- ① 近年の小児期医療の進歩により、約90%の患児が成人期を迎えるようになってきている。
- ② また、患児個人の人格の成熟に伴って保護者や小児科医のもとで行われている保護的な医療から自己決定権を直接に行使できる自律的な医療へと変化していく事が求められている。
- ③ 成人期医療への移行が相応しい時期になっても、医療体制や本人の準備が整わないために移行が円滑に行われないことがある。
- ④ 小児期発症疾患の継続診療にあたっては、これらの患者が病態・合併症の年齢変化や身体的・人格的成熟に即して適切な医療を受けられるようにすることは、小児期医療から個々の患者に相応しい成人期医療への移行期医療が重要な課題となってきた。

### 課題

#### ●患児者・家族

- ・患児者として小児科は全て分かってくれているという安心感が強い(小児科医にどっぷり依存)  
⇒そのまま小児科で診てもらいたいという要望が強い。
- ・地域の中核病院で受診している場合が多く、地域のどこの病院やクリニック等で受診すれば良いか分からない。
- ・小児科と成人科では受診の方法が違う事を認識してもらう  
⇒小児科は全ての科の受診が可能であるが→成人の診療科は専門化が進んでいて臓器ごとに受診。
- ・患児者自身の自律性と病気の理解度が十分でない⇒医師や親への依存度が高く自律性が十分でない。  
また本人が病気について理解していないことが多い。

#### ●医療機関

##### 共通課題

- ・大きな問題として小児科と成人科の連携が殆どない状況である
- ・移行期医療の主体が小児科か成人科かについて明確にされていない  
⇒今までの流れとしては、患児者家族、医療従事者も小児科医が中心となって、患児者の生涯にわたり医療を提供する、と認識されている場合が多い⇒しかし、今後は成人科医が主となる体制が必要

## 小児科

- ・移行期の理解が十分とは言えない。
- ・家族のように長く付き合うため、手放さそうとしない医師も散見される。  
⇒疾患の落ち着いた状態の時点で、基礎疾患は終了した。成人科に移行するように進めるべきである。

## 成人科

- ・小児疾患に接する機会が少なく不慣れで、移行期についての理解が十分でない場合が多い
- ・障害児に対応できる医療機関が殆どなく、またその情報が不足している。
- ・15歳をすぎると体も大きくなり、在宅医の確保が難しい。また緊急時のバックアップが重要。
- ・特に内科医は移行期年齢になっても、そのまま小児科で診てもらいたいと思っている事が多い。

## 移行期医療が停滞している理由

- ・患児者家族の強い希望による
- ・成人科が物理的に遠い
- ・病態が複雑、病状が不安定である
- ・移行に向けて定期観察中、タイミングを見て移行予定
- ・先天性疾患など成人科医の経験が少ない疾患がある
- ・知的障害、発達障害、てんかん等病気の特性によるもの

## <現実としての問題点>

一定の年齢になったからと言って、地域の病院に移って下さいと言われても困ってしまう。

- ① 市民病院の場合は、小児科だけで終わるが、地域の開業医の場合は専門的な分野に分かれていて、それぞれ受診する必要がある。
- ② 何処に行けばよいのか分からない。
- ③ 成人科医にカルテを送ってもらっても、患児者の実態把握は難しいと思われ、病気等について今までの説明をするのも難儀である。
- ④ 該当する開業医が近くにない場合がある。
- ⑤ 知的障害の場合は、環境に影響される事が多く、パニックになる可能性も大きい。  
(子どもの気持ちを理解してあげる必要がある)

## <現実としての対処法は？>

- ① 地域の病院が分からないので、主治医に病院の紹介をお願いします。若しくは市民病院の成人科を紹介してもらおう。(市民病院内の移行なら症状の説明はあまりなくて済むか?)
- ② 移行は年齢だけで判断するべきものではないと言う意見も有ります。病気の特性、症状等総合的に判断し決定すべきだと思います。病気の特性があり30歳を超えても小児科で診てもらっていた事実もあります。また移行の話が出た時に主治医が転院したのを機に成人科に移行した人もいます。
- ③ 移行期においていかなる医療を受けるかの決定権は患者にありますので、主治医とよく相談するのが良いと思います。

以上

\*会員の皆さまからお寄せ頂いた市長、議長に対する3年度父母の会要望書の原案が出来ましたので紹介します。今後豊障連各団体と調整し要望書として提出していきたいと思っております。

## 令和3年度要望書

令和2年7月20日

豊橋市肢体不自由児（者）父母の会

### 1. 移動支援事業の利用対象者拡大および通学、通園、通院に利用できるように制度の見直しをお願いいたします。

移動支援事業は大変良い制度ですが、知的や精神障害者の手帳所持者は誰でも利用できるのに対し、身障手帳所持者は、体幹1・2級、下肢1級以上しか利用できません。是非対象者の拡大をお願いいたします。県内の名古屋市、春日井市等多くの市町村は障害者手帳を持っていれば利用できるようになっています。

身体の場合は介護保険対象者（制度がない）の利用が多く見込まれ、介護保険対象者は除くというような年齢条件等を設ければ対象者は限定されると思いますので早急に改善をお願いいたします。

また通学・通園、通院等に利用できないため大変不便を感じています。県内では名古屋市が利用できるようになっています。

通園、通学等は通年かつ長期にわたる外出の為、原則対象外ですが、母親等介護者が病気等で付添いが出来ないだけで学校や保育園を休まなくていいように、制度の見直しをお願いいたします。

なお家族の入院等緊急已む得ない場合の移動支援は利用可能となっていますが、入院してからでは現実として利用できない状況であり、改善をよろしくをお願いいたします。

### 2. 医療的ケアに対応できるショートステイおよび児童発達支援や放課後等デイサービス、日中一時支援事業の設置・増設をお願いします。

現在医療的ケアに対応できるショートステイについては、まだ一か所しかなく十分ではありません。豊川市に重心施設が開所しましたが、重心施設でありショートステイの利用は思う様に利用できない状況です。以前ご回答いただいた珠藻荘や希全の里は夜間の対応は難しいと思います。ショートステイ利用は緊急時が多く、自立支援協議会等で協議を重ねて医療機関や福祉施設で対応できるようにご努力頂いていますがなかなか実現していません。

また、放課後等デイサービス、日中一時支援事業の受入施設は増えてきていますが、医療的ケアに対応できる施設はごく一部です。同サービスを利用したい児童はますます増加しておりその不足感は歪めません。医療的ケアは日常生活に必要な行為であり、それに対応できる諸施設の増設を是非お願いいたします。

### 3. 渥美線の主要な高師駅、大清水駅のバリアフリー化を図って下さい。

以前に要望書を提出させて頂いた渥美線南栄駅のバリアフリー化については令和2年3月に改善されました。厚く御礼申し上げます。しかし乗降客が多い高師駅・大清水駅は車いす利用者にとっても使いづらい状況です。高師駅はスロープがなく駅員の補助を長い間待たなければなりません。また大清水駅は改札に階段があり、スロープは外に廻って鉄扉を開けてもらう必要があります。その上、昇りも下りも急な坂となっていて一人では昇り降りが出来ない状態です。

国の基本方針として一日平均乗降客が3,000人以上いる駅はバリアフリー化するという目標がありますが、現在は人口減少の影響も有り両駅ともその基準に満たされていない調査結果だとお聞きしています。

しかし車いす利用者は身体障害者だけでなくお年寄りを含め増えています。スロープがなかったり、急な坂道の昇り降りは誰かにお願いして補助してもらうしかなく、大変不便でいやな思いをするので両駅を利用しないと言う声を多く聞きます。また合理的配慮の面からも十分ではないと思われます。

渥美線は公共性が非常に高く、車いす利用者の利便性を向上のためにも豊橋市としても是非改善に取り組んで頂けるようお願いいたします。

#### 4.福祉タクシー増車対策のお願い

福祉タクシーを以前より時々利用していますが、近頃予約がとても取りづらくなっています。タクシー会社によると、福祉タクシーは採算が合わず数社が撤退していて、台数も減少している状況のようです。

障害児者やお年寄りは福祉タクシーを利用する機会が多いですが、利用したい時に利用できないのはとても不便を感じます。補助金付与等福祉タクシー増車の対策を講じていただけますようお願いいたします。

#### 5.災害時の個別支援計画の策定のお願い

障害児者の福祉サービス個別支援計画はセルフも含めて着実に作成されていますが、災害時の個別支援計画については、現状努力義務であり作成されていない状況だと思えます。災害時の支援については避難行動要支援者登録制度がありますが十分ではありません。

災害はいつ起きても不思議でない時代に障害児者一人ひとりが『自らを守る姿勢』を確認することはとても重要だと思えます。個別支援計画は福祉サービスと共に災害時についても作成するように周知徹底をお願いいたします。

#### 6.りすば豊橋で時間単位・障害者専用レーン設置のお願い

りすば豊橋を時々利用させていただきありがとうございます。昨年度も要望させていただきましたが、25mレーンに時間単位・障害者専用レーンを1レーン（有料・1時間で可）設けていただきたいと思います。昨年度の回答で25mレーンについては、常時専用レーンを設けていないが、状況によっては柔軟な対応が可能な場合もあり必要時ご相談くださいとありますが、現実には対応が難しいようです。

障害者と健常者が同じレーンを利用する場合、ちょっとした事でもめめたり、何かとトラブルになったりすることが多々あります。他のプールでは専用レーンを設けている所も有ります。プールは利用者全員が気持ちよく利用させていただくためにもご配慮よろしくをお願いいたします。

#### 7.防災・停電対策として人工呼吸器装着児者の加湿器用ポータブル電源購入費用5万円助成のお願い

災害時の停電対策として、人工呼吸器使用に必要な発電機等の補助金は令和2年4月より自家発電機及び外部バッテリー等購入代金に対し上限10万円の補助金を新設していただき深く感謝申し上げます。

しかし10万円は人工呼吸器に常に付属して使用する加湿器は含まれていません。加湿器にはポータブル電源(蓄電池)が必要不可欠です。それがないと痰がつまってしまう呼吸を十分にサポートすることができません。

在宅で電源の必要な人工呼吸器等医療機器を常時使用している重症心身障害児者は発電機や加湿器用ポータブル電源(蓄電池)の確保は急務で、命に直結する問題です。是非発電機の他に加湿器用ポータブル電源(蓄電池)購入費用として5万円の補助金新設をお願いいたします。県内豊田市では令和元年度より、発電機とポータブル電源別々の補助金制度が制定されていますのでよろしく申し上げます。

(標準価格:発電機12万、ポータブル電源6万円)

(参考:豊田市災害時電源補助金・人工呼吸器用バッテリー20万円、発電機11万円、ポータブル電源等5万円)

以上



# 東海3県2市ボッチャ交流会優勝 金田大輝さん

令和2年1月に岐阜県で開催されたボッチャ交流会「立位の部」で金田大輝さんが優勝されました。おめでとうございます！



## ボッチャ交流会優勝

東海3県2市の「オープン立位」で栄冠  
参加者が熱戦

東海3県2市ボッチャ交流会「オープン立位」で優勝した金田大輝さん（20）が6日、田原市役所を訪れ、山下政良市長へ喜びを報告した。（木村裕貴）

ボッチャは、東京パラ「青の球を投げ合って競いリンピックの正式種目 合うことから「地上のカデ、目標球に向けて赤と青のリング」とも呼ばれる。

1月26日に岐阜県福祉友愛アリーナで開催された同交流会は、愛知、岐阜、三重3県と名古屋、浜松2市から参加者を募った。

知的障害と身体障害を持つ金田さんは競技歴2年。週2回、田原市の衣笠市民館で技と戦術を磨き、立った姿勢で投げる個人戦「オープン立位」で今回優勝を果たした。

この日、金田さんともにもボッチャを体験した山下市長は「ルールが簡単で楽しい」とした上で「これからもどんどん賞状をもつてほしい」と激励した。

同競技の審判資格を持つ母・美穂子さん（51）は「ボッチャを通して息子が健康に過ごし、仲間とのつながりができればいい。もっと競技を広げていきたい」と笑顔で話した。

田原市長を金田さん表敬

東愛知新聞 令和2年3月8日より（左記事）

## ボッチャ優勝「うれしい」

### 田原の金田さん市長に報告



ボッチャを楽しむ金田さんと山下市長＝田原市役所で

東海3県などの選手が集まって岐阜県で一月に開かれたボッチャ交流会で優勝した金田大輝さん（20）が6日、田原市役所を訪れ、山下政良市長に喜びを報告した。

ボッチャは、ボールを投げたり、地面に転がしたりして、目標球に近づくかを競う。生後間もなく重度の脳性まひとなった

金田さんは「優勝できてうれしかった」、ボッチャの審判資格を持つ母美穂子さん（51）は「今までの練習の成果が出てよかった。ボッチャを通して健康を維持して、多くの仲間ができれば良いと思ってます」と話した。

この日、金田さんと一緒にボッチャを体験した山下市長は「ルールが分かりやすくて楽しい。たかさんの賞状をもらえよう頑張ってください」とエールを送った。（鈴木弘人）

# 中日新聞

発行所 中日新聞社  
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号  
〒460-8511 電話 052(201)8811

2020年(令和2年)  
3月12日(木)

## ＊＊＊ 「心魂プロジェクト」オンラインデリバリーパフォーマンス ＊＊＊

令和 2 年 7 月 26 日(日) 14:00~16:00 開催  
場所: あいトピアボランティア活動室、研修室、各家庭

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、感染防止のため様々な行事が中止、延期、縮小開催となり、未だ収束の目処がたっていません。

例年全肢連のさわやかレクリエーションの助成を受け、グリーンホテル三ヶ根にて 1 泊 2 日の東三ブロック父母の会療育キャンプとして 7 月に開催していました。

今年は感染防止のために中止を決定しました。しかし、このコロナのためにみんな我慢を強いられ、何もできない日々がいつまで続くのか?この自粛の時に何かできることはないのか?と考えていたところ、父母の会と心魂プロジェクトさんとの気持ちがぴったりと合い、今回のオンライン配信によるパフォーマンスが実現しました。

今回のオンライン配信は、フェイスブックを使用するため、その登録をしていない人はどうするのか?参加条件に偏りが合ってはならない・・・ということで、SNS 等苦手な方には会場に出向いていただき、配信を観ることが可能な会員さんにはご自宅で参加していただくことにしました。

会場もコロナ対策とし、いつもならみなさん一同に会して行事を行うところ、田原・豊川・豊橋にそれぞれ部屋を借り、参加する場所を分け 3 密を避けることとしました。

最終的に豊川の会員さんは全員ご自宅から、田原も殆どの方がご自宅から参加し一部豊橋会場に来ていただきました。豊橋会場はあいトピアの 2 部屋を利用しました。それぞれ通常の定員より大幅に減らされていましたが、さらにその半分以下の人数にすることで、3 密を避け、プロジェクターにフェイスブックを映し出し、みんなで配信を観れるようにしました。

会場参加者には、入室前の体調確認と体温チェック、アルコールによる手指消毒、可能な方のマスクの着用のご協力をいただきました。

そして、参加者には心魂さんからのプレゼントとして心魂オリジナルの「こころん T シャツ」をいただき、それを当日みんな着用して参加しました。

心魂さんは横浜、千葉から、こちらそれぞれ自宅や会場となったあいトピアからの参加で、みんな違う場所からの参加でしたが、web 会議システムの「ZOOM」を使用し、web 上でみんな顔をあわせることもお話しすることもできました。バラバラの場所にいるのに、いつもより会員さん同士がひとつになれた気がしました。

心魂プロジェクトさんは今までも父母の会クリスマス会、今年の定期総会記念公演にも来てくださっていて、父母の会会員さんの中でもファンの方が多く、今回も多くの方にご参加いただきました。企画する側うまく通信できるのか?ハラハラしながらも今の時代に合ったリモートでのイベントが成功し、今後にまた活かせるのかもしれないという自信につながりました。

今回のイベントに際し、スタッフとして動いてくださった豊橋、豊川、田原の役員の方々、感染防止対策にご協力いただいた会場参加者のみなさん、ご自宅からドキドキしながら参加して下さったみなさん本当にありがとうございました。



参加者より感想文をいただきましたので紹介します。

後藤

## \*感想文\*

梅雨明け前の7月26日(日)は、雨が降ったりやんだりのあいにくの日でしたが、総合福祉センターあいピアに豊橋市、田原市の肢体不自由児者父母の会のメンバーがプレゼントでいただいた揃いのTシャツを着て集まりました。もちろん自宅での参加者の方たちもいました。

いつもはステージでミュージカル公演を観させていただいていましたが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインスペシャルデリバリーパフォーマンスという企画で、今の時代(我が家は乗り遅れています)の参加形式でした。

オンライン配信で観るってどんな感じだろうとワクワクして席に着きました。

スクリーンには以前お会いしたことがあるマー君、じゅんちゃん、ゆいちゃん、みーちゃん達、その他大勢の方々の顔が映り新しい形で会うことができました。

まず全員参加で第九のメロディーに合わせて日本語版での合唱でスタートしました。

その後「夢をかなえてドラえもん」「風になりたい」「いのちの歌」「ひとりじゃない」等々、次々にすばらしいパフォーマンスが繰り広げられました。

しかし、ここまで配信されたり、配信をうけるまでにどれだけ準備が大変だったかと思うだけで、観ているだけの私ですが、すっかり疲れてしまいました。

配信して下さった心魂の皆様、会場準備をしてくださった方々本当にありがとうございました。

鈴木智江子

## \*感想文\*

初めてのオンラインデリバリーパフォーマンス参加について真っ先に頭に浮かんだのは「還暦のこの私に果たして操作が出来るか?当日、参加できなかつたらどうしよう」と言う心配と不安でした。

しかし、何事もやってみないと「コロナ」に負ける気がして、何日もかけて操作を習い、頭を抱えながら教えてもらい、何とか参加できました。

当日は楽しみにしていた心魂さんのTシャツを着て娘と一緒に早々にスタンバイ。自宅で劇場公演さながらに夢のような楽しい時が流れ娘も大喜び。娘はお馴染みのマー君、みーちゃんに向かって「こんにちは」と呼び、歌が始まると一緒に歌っていました。娘が好きな歌をたくさん歌って下さりありがとうございました。

コロナで全ての予定が流れ、外出もままならぬ毎日と先行き不安のストレスの中で素敵な歌声をありがとうございました。本当に気持ちが晴ればれました。

障がいのある子供を育てた私には「命の歌」は心に響く最高の歌でした。また寺田真実さんの障がい児(者)への温かいお言葉も心にしみました。コロナ問題が落ち着いた暁には是非とも心魂の皆さんと再会したいです。

素敵なパフォーマンスを本当にありがとうございました。



河合文江





# 友だち紹介

No.25



牧野 聡太  
(まきの そうた)

【通所施設・年齢】  
もくせいの花・信愛  
22歳

【好きな事】

話しかけてもらうこと。口笛。

【趣味・得意な事】

みんな笑顔にすること。

【みんなに言いたい事など】

どこでもいいので見かけたら声をかけてください。



大竹 希果  
(おおたけ ののか)

【学校名・学年】

豊橋特別支援学校  
中学部1年

【好きな物・事・人】

テレビで動画を観る・  
パスタ・お父さん。

【趣味・得意な事】

動画を観ながらダンス、歌を歌う

【がんばっている事など】

今年から中学生になりました。コロナの影響で休校になり、新生活のスタートが遅くなりましたが、元気に学校生活を楽しんでいます。



勝木 心菜  
(かつき ここな)

【学校名・学年】  
豊橋特別支援学校  
中学部3年

【好きな事】

友だちと買い物や遊びに行くこと。  
早くコロナがおさまって、カラオケに行きたいです。  
ぬいぐるみのスライムを大切にしています。

【趣味】

絵を書いたり、コラージュをすること。漫画を読むこと。

【がんばっていること、自己PR】

美文字！きれいな字が書けると気持ちがスッキリするので、もっとキレイに書けるようがんばっています。



中西 八重子  
(なかにし やえこ)

【勤務先】

あいトピア内の  
喫茶路面電車

【好きな事・得意な事】

裁縫。

裁縫が得意なので、自分の服（ブラウス等）をよく作っています。

【がんばっていること、自己PR】

あいトピアの路面電車で週に1~2日お仕事しています。

お仕事はとても頑張っています。

良かったら路面電車に来てください。



＜今後の主な行事予定＞

- 9月12日(土) 児童部オンライン座談会・ZOOMにて  
9月26日(土) さくらピア避難所体験講演会・さくらピア  
~~9月27日(日) 野外訓練会・豊橋総合動植物園 (中止)~~  
~~10月27日(日) 豊障連体育祭・さくらピア (中止)~~  
11月7日(土) 愛肢連わいわいカーニバル・岡崎市中心総合公園  
11月10日(火)～15日(日) 豊障連文化祭・さくらピア  
11月11日(水) ○父母の会Q&A委員会・あゆみ学園  
11月14日(土) ボランティアのつとめ・さくらピア  
12月5日(土) ○県心身協福祉大会・愛知県社会福祉会館  
12月20日(日) クリスマス会・あイトピア



☆9/27 野外訓練会, 10/27 豊障連体育祭はコロナウィルス感染防止のため中止します

○印の参加募集はありません

※予定は順次ご案内いたします。急な変更・中止となる場合がございます。ご了承のほどお願い致します。

＜あとがき＞

・今回の表紙は、森貴広さんの作品です。「人と人とのつながりに感謝、ありがとう。」と、コメントいただきました。素敵な作品をありがとうございます。

・「父母の会ふれあい短期介護支援」「父母の会入院付添い支援」を活用しましょう。短期介護支援や入院付添い支援は緊急時や入院時に見てもらおう人がいないとき、同居以外の親族等にみてもらい、その介護支援費用(1日4時間以上・5,300円)のうち4,500円を父母の会で負担するものです。使ってみたいと思われた時、分からない事があった時には遠慮せずにご相談ください。会員の皆さまのご意見、ご要望を受けてより利用しやすい事業にしていきたいと思っています。

- ・父母の会相談員は中神達二、鈴木智江子、後藤久代、星川広江、磯田周平、尾崎博美、奥平久美子です。悩み事・心配な事、何でも気軽に相談してください。
- ・原稿や感想文を寄せていただいた方には、クオカードをプレゼントしています。積極的に投稿をお願いします。
- ・新会員も大募集中です。隣近所でまだ父母の会に入会されていない方がありましたら是非ご紹介ください。手帳をお持ちであれば障害の種別は問いません。
- ・年会費は¥2,000です。年会費は振込みも出来ます。年会費がまだ納めてない方は下記の振込先に振り込みをお願いします。(できるだけ同封しています振込用紙をご使用ください)

ゆうちょ銀行 口座番号 00840-1-135126 加入者名 豊橋市肢体不自由児(者)父母の会  
ゆうちょ以外の銀行等からの振込の場合 ゆうちょ銀行:店番 089 口座番号 0135126 口座名:同上

＜お願い＞

・いろいろな行事について出席のご返事のあと変更になった場合は 中神 まで電話または FAX かメールにてご連絡お願いいたします。

TEL : 0532-23-3217

FAX : 0532-23-4830

E-mail : [rsa34375@nifty.com](mailto:rsa34375@nifty.com)

